アンバサダーライダー・髙田茉莉亜と佐々紫苑の

週刊 Gallop 2021 年 9 月号掲載



日本中央競馬会所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。 早稲田大学卒。2012年全 日本ジュニアライダー総 合馬術選手権優勝。15、 16年全日本ヤングライ ダー総合馬術選手権連覇。 20年4月にJRA日本中 央競馬会入会。17年よ り日本馬術連盟アンバサ ダーライダー。

馬心伝心 -奮關記partII – 佐々紫苑 Shion Sassa

無観客の中で開催された今回のオリンピック。張り詰めた空気の中、地面を叩きつけるような力強い馬の足音と息遣いは、グリーンチャンネルやネット配信の映像からも皆さんに伝わっていたと思います。そんな中、障害馬術個人銀、団体金メダルを獲得したスウェーデンのPeder Fredricson選手とAll in号。実はこの馬、蹄鉄を履いていません。足音も他に比べてソフトで、地面に吸い込まれるよう

な感じです。馬術競技馬は蹄鉄なしではいいパフォーマンスができない、という今までの常識を大きく覆すこの裸足での走行は、鉄を履かせず、自然な状態にすることで、脚への負担が軽減し、より衝撃吸収がしやすくなるとの考えだそうです。

スウェーデンチームにはもう一頭、蹄鉄を履いていない馬がいましたが、コロナ禍で開催が1年延期になった時間を利用し、トレーニングを重ね、馬の力を最大限に引き出すための戦略を練った結果だそうです。裸足とはいえ、爪に特殊なコーティングをしたり、削蹄が難しくなったりと、トップ選手と一流装蹄師さんにとっても大きなチャレンジだったと思います。各国の関係者から、馬場のコンディションや施設は、世界でもトップクラスだと称替

された馬事公 苑。 大 会 の 素晴らしいレ ガシーとなっ たことは間違 いないでしょ う。

団体は金メダル! 試行錯誤の末につ かんだ勝利です (©日本馬術連盟)



Let's enjoy Dressage

髙田茉莉亜

Maria Takada

東京オリンピックが閉幕して、もう すぐ2カ月です。前回の馬場馬術競技 団体のハイライトに続き、今回は個人 戦のお話をしたいと思います!

馬場馬術競技4日目、最終日の個人 決勝前にはホースインスペクションが 行われました。これは決勝に進出した 18頭の競技馬が、競技に出場するのに ふさわしいコンディションかどうかの 確認作業で、馬のウェルフェアを守る ためにとても大切なものです。無事に



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆髙田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。 慶應義塾大学卒。2010、 11年に全日本ジュニアラ イダー馬場馬術選手権連 覇。16年の全日本ヤング ライダー馬場馬術選達成 で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連 盟アンパサダーライダー。

全頭がインスペクションを通過し、競技に出場できることに。

個人決勝は、グランプリ自由演技(フリースタイル)という選手が事前に用意した音楽に合わせて、決められた技(エレメンツ)を取り入れながら演技をする競技で争われました。優勝は、ドイツのJessica von Bredow-Wernd1選手! オリンピック初出場ながら、映画『La La Land』のサウンドトラックに合わせた素晴らしい演技で、団体戦と合わせて2つの金メダルを獲得しました。銀メダルは、同じくドイツのIsabell Werth選手! 7度目のオリンピック出場で、7つの金メダルを獲得しているベテラン選手が通算5つ目の銀メダルを獲得しました。そして銅メダルは、ロンドン、リオと連覇していたイギリスのCharlotte Dujardin選手! 前大会とは違う馬での



馬場馬術個人戦の表彰式。新旧女王がそろいました! (©日本馬術連盟

出場ながら、圧倒 的な実力で銅メダ ルを勝ち取りまし た。

3年後のパリオリンピックの馬術競技会場はベルサイユ宮殿! 今からすでにワクワク(©日本馬術連盟) しています。